

人権

JR西日本は、「相互に理解を深めるとともに、一人ひとりを尊重し、働きがいと誇りを持てる企業づくりを進める」という企業理念に基づき、すべての人の人権が尊重される豊かな社会を築き上げるため、「人権意識の醸成」「人権感覚の一層の高揚に向けた啓発活動」および「差別事象の未然防止」を推進し、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題の解消に取り組んでいます。

P 「人権に係るリスクマネジメント」を推進

D 差別事象未然防止の取り組み

業務内容の違いによって、職場で発生しうる差別事象は異なっています。そこで、職場ごとに発生しうる人権侵害リスクを洗い出すことで人権侵害の未然防止につなげる取り組みを行っています。

社員の意識の高まりを反映し、多くの箇所で「パワーハラスメント」「セクシャルハラスメント」「障がい者の人権」などが人権侵害リスクとして抽出されています。洗い出されたさまざまなリスクから「最優先課題」を選定し、ディスカッションや研修のテーマとして取り上げることで、人権へのより深い理解につなげています。これらの取り組みは、社員が働きやすい職場づくり、高齢者や身体の不自由なお客様への対応の改善など、ES・CSの向上にもつながり始めています。

「人権侵害リスク」の洗い出し

職場でどんな「人権侵害リスク」が想定されるかを参加者で洗い出す

最優先課題の抽出・対策の検討

洗い出された「人権侵害リスク」について重要度などの評価を行い最優先課題を決めるとともに対策を検討する

対策の実行

最優先課題を人権研修などのテーマに選定し、未然防止のための研修やディスカッションを実施する

当社グループでは、「全社員が人権研修を早期かつ年1回以上受講すること」としており、昨年度は、グループ全体で延べ60,650人の対象者が受講しました。人権研修は、世界人権宣言*1の趣旨を踏まえ、参加体験型研修などさまざまな手法により、人権問題を理解し日常業務に活かせる内容にしています。

Voice 私の次の一歩



誰もが快適にご利用いただける
駅をめざします

京都駅
運輸管理係 木村 裕美恵

京都は、国際観光都市として国内外から多くのお客様にお越しいただいています。京都駅では近年トイレ内に紙が散乱している、水が流されていないなど、トイレを利用されるお客様からご意見をいただくことが多くなっていました。

こうした事態に対し解決策を検討する中で、「文化や習慣の違いからトイレの使用方法が異なるお客様がいらっしゃるのでは?」という思いに至りました。そこで、誰もが快適にトイレをご利用いただけるよう、トイレの使用方法について文化・習慣の違いに配慮した5カ国語のイラスト入り案内を作成、掲出しました。

案内を全トイレ内に掲出してからは、ご意見をいただくような機会は大幅に減少し、多くのお客様に快適にトイレをご利用いただいています。現在では、この案内は京都駅に留まらず、当社内の多くの駅でも活用されています。

今後もさまざまなお客様に配慮し、快適に駅をご利用いただけるよう取り組んでいきます。

京都駅で作成した イラスト入り案内



C 「人権に係るリスクマネジメントの取り組み」の展開に課題

2014年度は、モニター職場49カ所との意見交換を通じてリスクの洗い出し手法に関する事例集を作成し、社内イントラネットに掲載することなどにより周知しました。

しかしその一方で掲載に気づいていない職場もあり、水平展開に課題が残りました。

A 取り組みと事例の共有を工夫します

各職場でリスクマネジメントの取り組みが浸透し、差別事象が発生していない状態をめざします。そのために、2014年度に作成したリスクの洗い出しに関する事例集の

周知徹底を図り、担当者へのメール配信や研修会などで
の伝達など社内周知の方法を工夫します。

用語解説 *1 世界人権宣言:1948年に国連総会で採択された「すべての人民とすべての国とが達成すべき共通の基準」を示した文書